

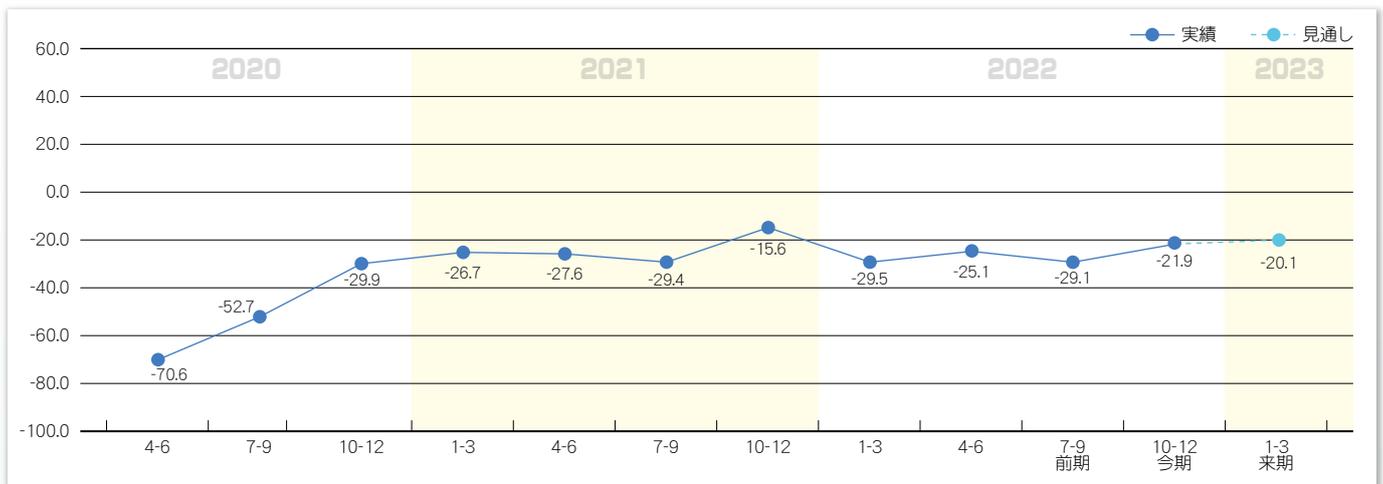
全業種

回答数324社

今期の業況D-Iは、前期比7.2ポイント上昇の▲21.9。建設・不動産を除くすべての業種で改善。売上、収益は回復傾向。一方、すべての業種で人手不足感が強まっている。来期の予想業況D-Iは、1.8ポイント上昇の▲20.1。ほとんどの業種で持ち直しを予想するなか、小売業は大幅悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

業況D-Iの推移



主要D-Iの推移 (注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



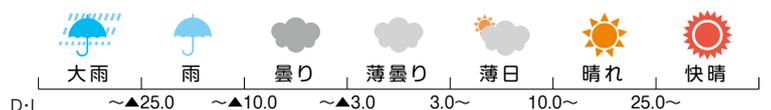
へきしん取引先景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測(景況)を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

調査概要

実施時期 2022年12月1日～7日  
 対象企業 324社  
 対象地域 西三河および尾張南部を中心とした当金庫の営業エリア

天気図の見方



D-I(ディフュージョンインデックス)とは…業況(業界の景気)等を判断するための指数であり、(良いまたはやや良いと答えた割合)-(悪いまたはやや悪いと答えた割合)で求められます。

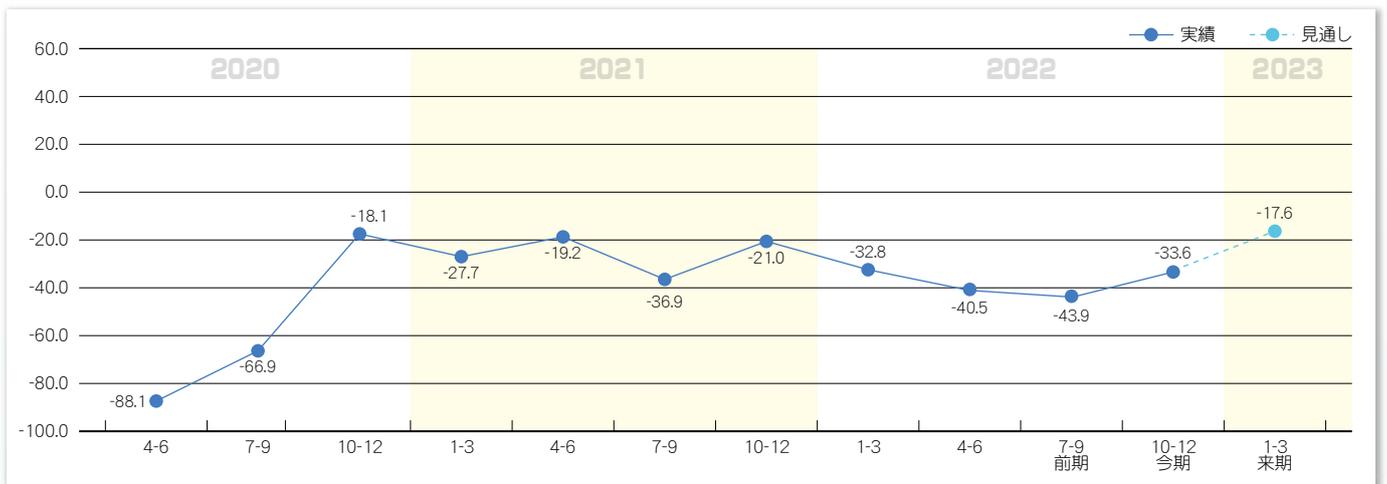
# 製造業

回答数 119社

今期の業況D・Iは、前期比10.3ポイント上昇の▲33.6と、四期ぶりに改善。受注の増加などにより、売上が大幅に改善した。来期の予想業況D・Iは16.0ポイント上昇の▲17.6。原材料費やエネルギーコストの価格転嫁などにより収益の大幅な改善が見込まれる。一方で、依然として半導体不足が続いているとの声もあり、先行き懸念は払拭されていない。

前期実績 今期実績 来期見通し

業況D・Iの推移



## 主要D・Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



## 調査員のコメント



- トヨタ自動車の減産の影響はあるものの、受注は安定している。(自動車部品製造)
- 原材料価格は高騰しているが、価格転嫁により収益確保できている。直近の資金繰りは苦しいが、回復の見通し。(金属製品製造)
- 受注増加および業務の内製化により、収益は改善傾向。脱コロナに向け業務拡大を図る。(印刷)
- 半導体不足により、売上が不安定。また、恒常的に人手不足な状況。(家具・装備品製造)



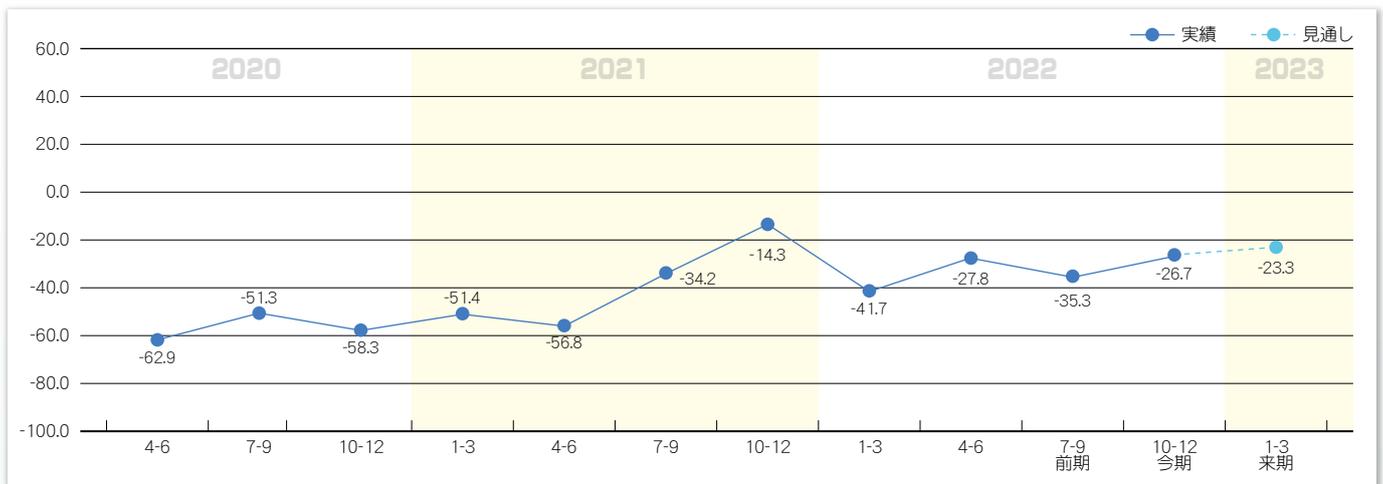
卸売業

回答数30社

今期の業況D・Iは、前期比8.6ポイント上昇の▲26.7となり、改善。仕入価格上昇の影響はあるものの、ほとんどの企業で販売価格への転嫁や業務効率化などにより収益確保に努めている。来期の予想業況D・Iは3.4ポイント上昇の▲23.3と、改善の見通し。値上げにより受注が減少したとの声もあり、売上は悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



調査員のコメント



- 仕入価格上昇分はある程度価格転嫁できている。経費削減や業務効率化により、キャッシュフローの改善を図っている。(食品卸売)
- 原油価格上昇により、売上高、仕入高ともに上昇傾向。コロナの制限緩和により業況は上向き見通し。(石油卸売)
- 人材確保が一番の課題。業界全体が高齢化で廃業する企業もあるなか、当企業は代表者の代替わりでデジタル化等により柔軟に対応している。(土砂卸売)



# 小売業

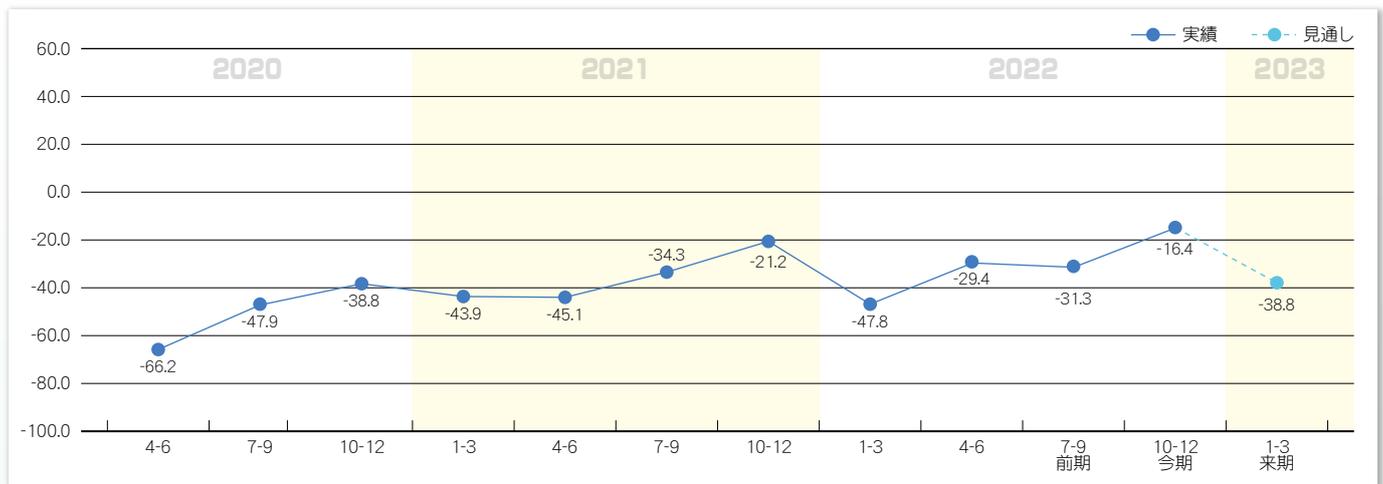
回答数67社

今期の業況D・Iは、前期比14.9ポイント上昇の▲16.4となり、改善。売上、収益はともに増加。一方で、仕入価格上昇、半導体不足、コロナ長期化などによる売上減少やコスト増加を懸念する声は依然多く、来期の予想業況D・Iは22.4ポイント低下の▲38.8と、大幅に悪化の見通し。収益確保に向け、経費削減や差別化などに取り組む企業も見られる。

前期実績 今期実績 来期見通し

業況D・Iの推移

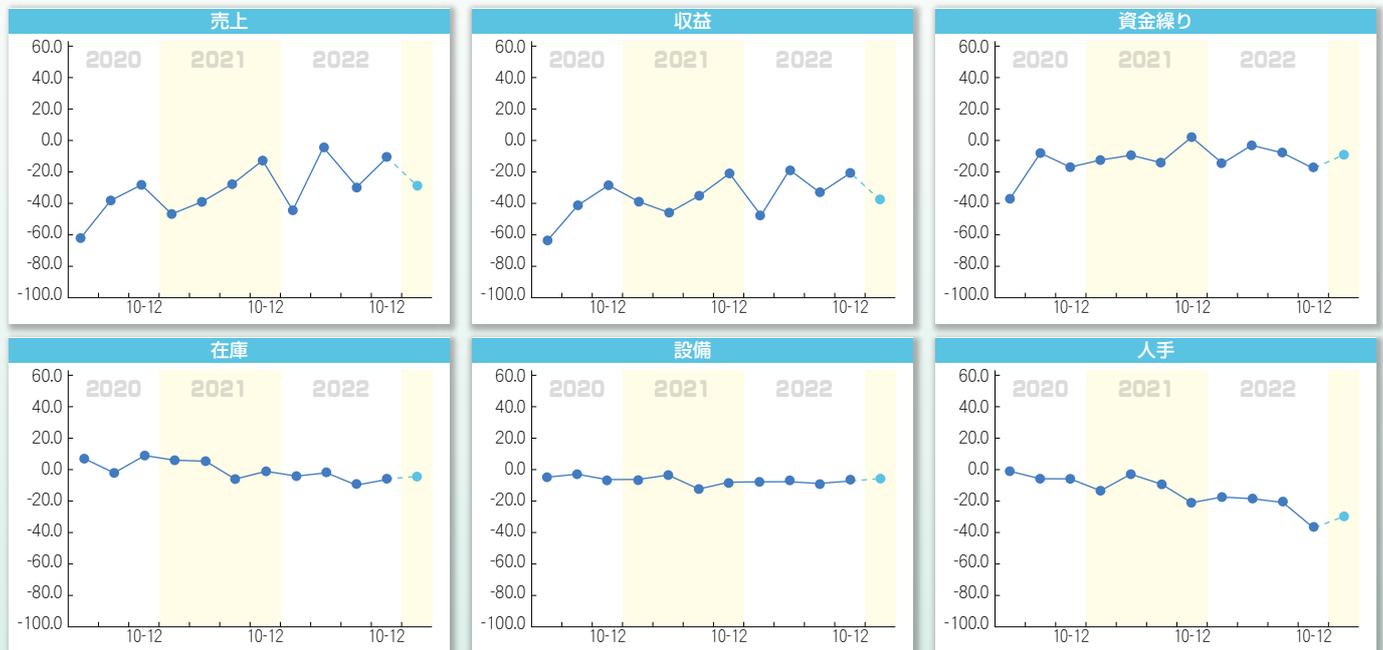
2020	2020	2020	2021	2021	2021	2022	2022	2022	2022	2022	2023
4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
☔	☔	☔	☔	☔	☔	☔	☔	☔	☔	☔	☔



## 主要D・Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績    ● 見通し



## 調査員のコメント



- ロシア・ウクライナ情勢、円安等による仕入価格高騰により一時利幅は減少したが、価格転嫁は完了しており、業況は徐々に回復見込み。(食品販売)
- 自治体発行の飲食店応援クーポンにより一時的に来店客は増加したが、コロナ以前の水準までは未だ回復できていない。(飲食店)
- 業況に大きな変動はないものの、光熱費が上昇しており、固定費の削減に注力している。また、パート・アルバイト等の人材確保に苦慮している。(コンビニエンスストア)



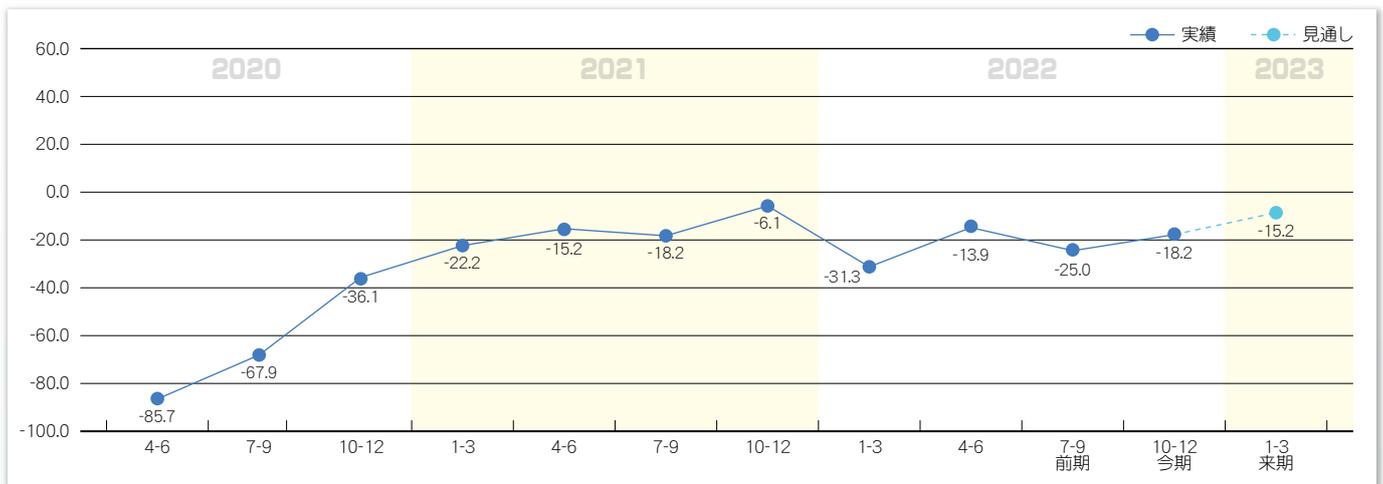
サービス業

回答数33社

今期の業況D・Iは、前期比6.8ポイント上昇の▲18.2。売上は増加したものの、原材料・仕入価格高騰などの影響を受ける企業が多く、収益は悪化した。来期の予想業況D・Iは3.0ポイント上昇の▲15.2と、改善の見通しだが、人手不足感がより一層深刻となることが予想されるなど、将来に対する不透明感は払拭できていない。

前期実績 今期実績 来期見通し

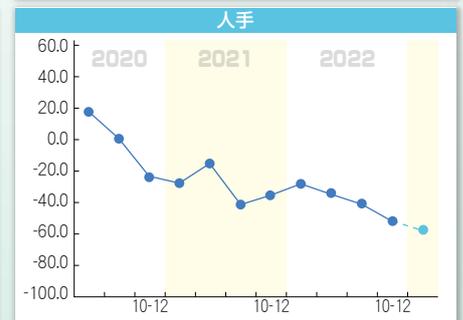
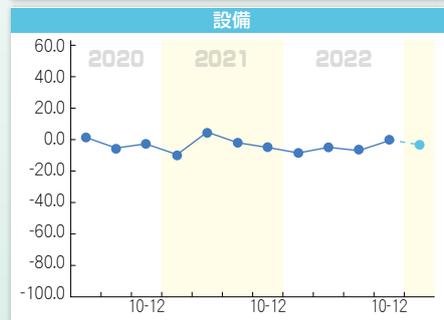
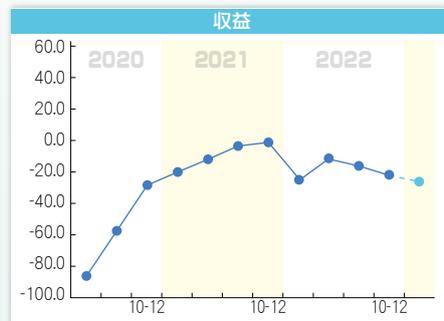
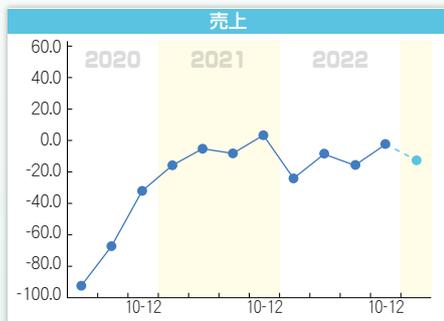
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



調査員のコメント



- 受注量等には大きな変化はないものの、人材不足や仕入価格の値上がりが課題である。販売価格に転嫁できるよう対応中。(自動車整備業)
- コロナに伴う取引先の売上高減少や廃業により、収益が減少。(税理士)
- 市内巡回バスの受注が好調。タクシー事業においても、コロナ前の90%程度まで回復している。(旅客運送)



# 建設・不動産業

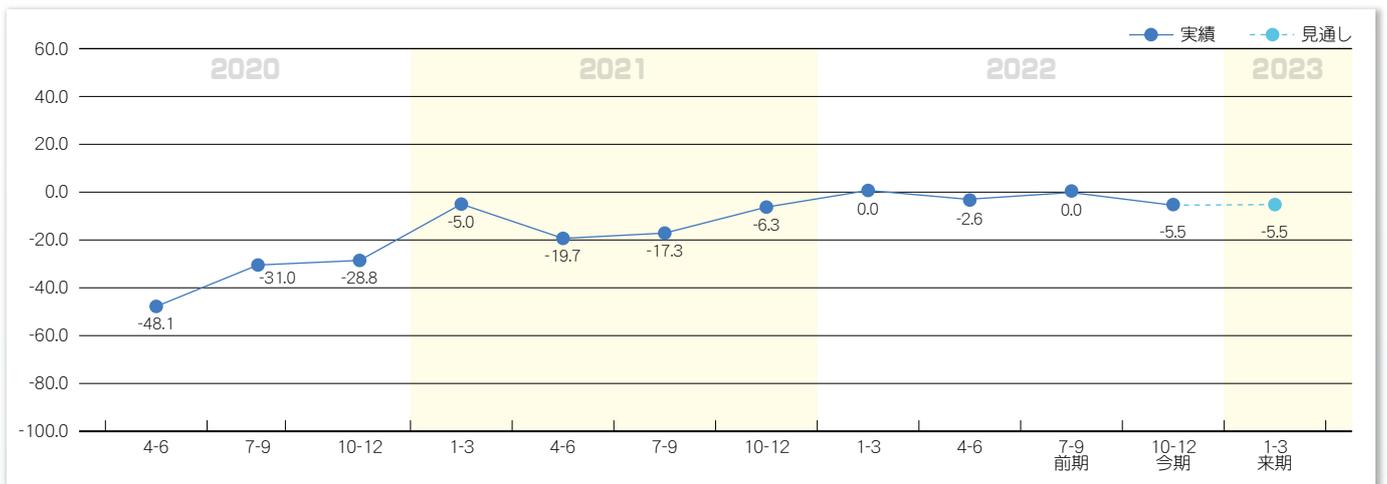
回答数73社

今期の業況D・Iは、前期比5.5ポイント低下の▲5.5となり、悪化。売上の安定化を期待するなか、資材や地価の上昇による収益圧迫が懸念されるが、他の業種に比べると業況は安定している。来期の予想業況D・Iは▲5.5と、横ばいの見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

業況D・Iの推移

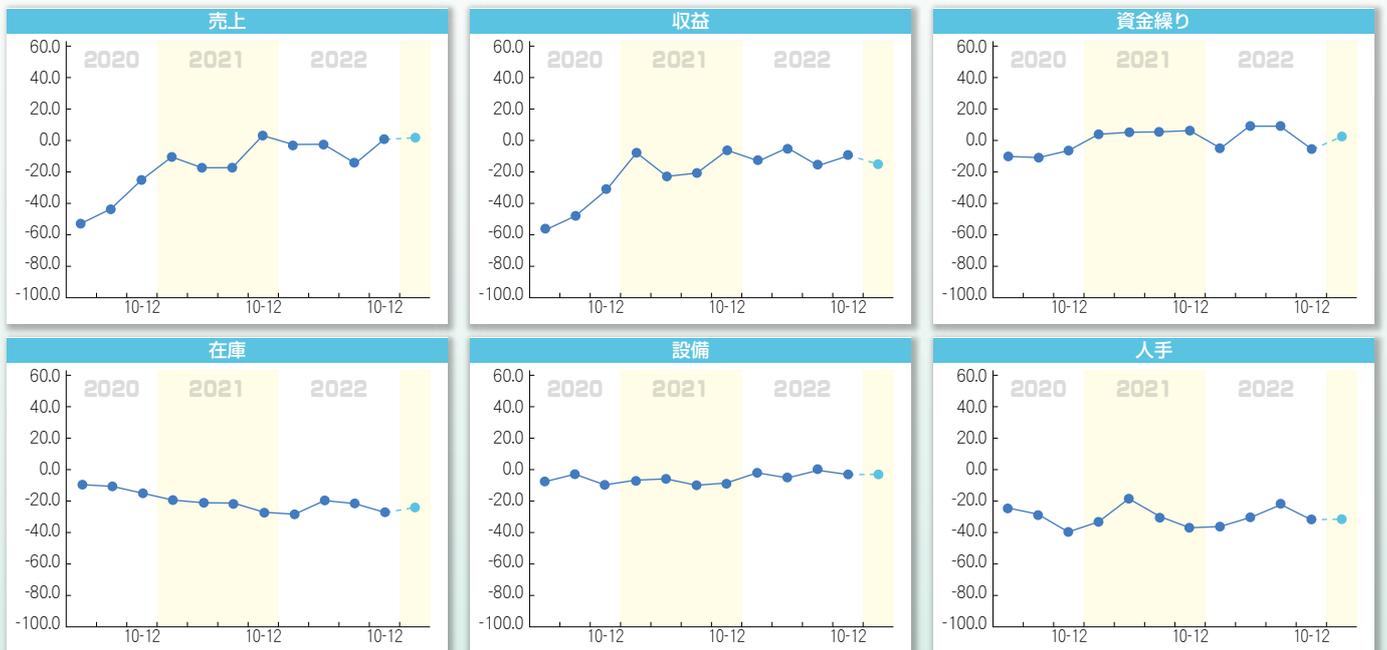
2020	2020	2020	2021	2021	2021	2022	2022	2022	2022	2022	2023
4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月



## 主要D・Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



## 調査員のコメント



- 仕入価格高騰の影響はあるものの、販売価格に転嫁するなど利益確保に向けて取り組んでおり、業績は好調。(不動産業)
- 大型受注があり、来年は大幅に売上増加の見込み。人材が不足しており、外注費が増加。(管工事業)
- 従業員の高齢化で、受注量を調整し始めている。(建築土木)